

# 大塚君とむらひの日に

教授 高木市之助

いく百のころあつまりひしくといだきしめたりいたましき君を。

『もうい』とをとつひは云ひきおごそかに今は黙しぬまたおごそかに。

靈前の友のことはときれつたふとくありけりありのまゝにて。

そのいのち『死ぬる死ぬる』とさけびたるたゝかひのあとのけふのしづけさ。

たゝかひは清くさみしき君ゆねにいとごはげしくたゝかはれけむ。

癒ね果てばぎりしや語やらうとつぶやきていく日もあらぬに。なにのぎりしや語。

なにうらむとは無けれども人の死のいきどほろしくたへられぬかも。

君を思ひわれを思ひつぬかるみを歩いて来れば日は暮れにけり。

—(七十二六)—

月 似 古

春 野 晚 翠

世々を経て人はふりにし宿たによ昔ながらの月はすみける。

遠 島 月

和だの原はるけき島の山の端にかゝるかがみの秋の夜の月。